

# とうもろこし（サイレージ用）「P7948」

道総研北見農業試験場 研究部 馬鈴しょ牧草グループ

## 1. 試験のねらい

とうもろこしサイレージは、高栄養自給粗飼料として高く評価されている。輸入穀物価格の上昇が著しい近年の情勢に対応し、飼料自給率の向上を図る必要があることから、その重要性は増している。良質なサイレージ原料を確保するためには、各栽培地帯において安定した生産性を発揮できることが重要であり、品種比較試験を行い、優良品種を選定する。

## 2. 試験の方法

とうもろこし（サイレージ用）「P7948」は、パイオニア社（アメリカ）が単交配（フロントデント×デント）により育成した一代雑種品種である。ホクレン農業協同組合連合会が2019年に導入し、品種比較予備検定試験を行った。有望性が認められたことから2020年-2022年に北見農業試験場（訓子府町）および畜産試験場（新得町）において品種比較試験を行った。また、2021年-2022年に鹿追町において、同現地試験を行った。さらに、2020年-2022年に北海道農業研究センター（札幌市）において、すす紋病抵抗性およびごま葉枯病抵抗性に関する特性検定試験を行った。

## 3. 成果の概要（標準品種「KD320」との比較）

- 1) 早晚性：絹糸抽出期は同日から1日遅く、収穫時熟度は並である（表1）。雌穂乾物率および総体乾物率は農試平均、現地ともに高い（表2）。早晚性は“早生の中”に属する。北海道統一RMは総体が78、雌穂が76である。
- 2) 耐倒伏性：並である（表1）。
- 3) 発芽・初期生育：発芽期は同日から1日早い。初期生育は並（表1）。
- 4) 収量性・乾物特性：乾物総重および推定TDN収量は農試平均で並およびやや多く、現地でも多い（表2）。乾雌穂重割合は高く、乾物中推定TDN割合はやや高い（表2）。
- 5) 形態特性：稈長は高く、着雌穂高は同程度からやや高い（表1）。
- 6) 耐病性：特性検定試験におけるすす紋病抵抗性は“かなり強”である（表3）。軽微な発生条件下での圃場試験におけるすす紋病罹病程度は同程度であった（表1）。特性検定試験におけるごま葉枯病抵抗性はやや弱い（表3）。圃場試験におけるごま葉枯病罹病程度は同程度であった（表1）。根腐病の発生率は同程度からやや高い（表1）。

## 4. 留意点

なし。